

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 5 月 17 日 (2007.5.17)

【公表番号】特表 2006-523709 (P2006-523709A)
 【公表日】平成 18 年 10 月 19 日 (2006.10.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-041
 【出願番号】特願 2006-510112 (P2006-510112)
 【国際特許分類】

C 0 7 K 14/495 (2006.01)
C 1 2 N 15/09 (2006.01)
A 6 1 K 38/00 (2006.01)
A 6 1 P 25/04 (2006.01)
A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 14/495
 C 1 2 N 15/00 Z N A A
 C 1 2 N 15/00 A
 A 6 1 K 37/02
 A 6 1 P 25/04
 A 6 1 P 43/00 1 0 5

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 3 月 14 日 (2007.3.14)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

第一ニューブラスチンポリペプチドおよび第二ニューブラスチンポリペプチドを含む二量体であって、ここで：(a) 少なくとも一つの該ポリペプチドはグリコシル化されており；(b) 少なくとも一つの該ポリペプチドはその N 末端にて、水溶性の合成ポリマーが結合しており；そして(c) どちらの該ポリペプチドも、N 末端以外の位置に水溶性の合成ポリマーが結合していない、二量体。

【請求項 2】

前記第一ニューブラスチンポリペプチドが、N B N 1 1 3 (配列番号 2)、N B N 1 4 0 (配列番号 6)、N B N 1 1 6 (配列番号 7)、N B N 1 1 2 (配列番号 8)、N B N 1 1 1 (配列番号 9)、N B N 1 1 0 (配列番号 10)、N B N 1 0 9 (配列番号 11)、N B N 1 0 8 (配列番号 12)、N B N 1 0 7 (配列番号 13)、N B N 1 0 6 (配列番号 14)、N B N 1 0 5 (配列番号 15)、N B N 1 0 4 (配列番号 16)、N B N 1 0 3 (配列番号 17)、N B N 1 0 2 (配列番号 18)、N B N 1 0 1 (配列番号 19)、N B N 1 0 0 (配列番号 20) および N B N 9 9 (配列番号 21) からなる群から選択される、請求項 1 に記載の二量体。

【請求項 3】

前記第一ニューブラスチンポリペプチドのアミノ酸配列および前記第二ニューブラスチンポリペプチドのアミノ酸配列が同一である、請求項 1 に記載の二量体。

【請求項 4】

前記水溶性の合成ポリマーがポリアルキレングリコールである、請求項 1 に記載の二量体

。

【請求項 5】

前記第一ニューラスチンポリペプチドの N 末端のアミノ酸および前記第二ニューラスチンポリペプチドの N 末端のアミノ酸が、それぞれ、ポリアルキレングリコールに結合している、請求項 4 に記載の二量体。

【請求項 6】

前記第一ニューラスチンポリペプチドのアミノ酸配列が N B N 1 0 4 (配列番号 1 6) である、請求項 3 に記載の二量体。

【請求項 7】

前記二量体に結合した前記ポリアルキレングリコール部分の総分子量の平均が、1 0 k D a ~ 5 0 k D a である、請求項 1 に記載の二量体。

【請求項 8】

前記二量体に結合した前記ポリアルキレングリコール部分の総分子量の平均が、1 5 k D a ~ 4 5 k D a である、請求項 7 に記載の二量体。

【請求項 9】

前記二量体に結合した前記ポリアルキレングリコール部分の総分子量の平均が、2 0 k D a ~ 4 0 k D a である、請求項 8 に記載の二量体。

【請求項 1 0】

前記ポリアルキレングリコールが直鎖状である、請求項 1 に記載の二量体。

【請求項 1 1】

前記ポリアルキレングリコールが分枝状である、請求項 1 に記載の二量体。

【請求項 1 2】

前記ポリアルキレングリコール部分がポリエチレングリコール (P E G) 部分である、請求項 1 に記載の二量体。

【請求項 1 3】

請求項 1 に記載の二量体および薬学的に受容可能なキャリアを含む、組成物。

【請求項 1 4】

哺乳動物において神経障害性疼痛を処置するための組成物であって、治療的に有効な量の請求項 1 に記載の二量体を含む、組成物。

【請求項 1 5】

哺乳動物において触覚性異痛症を処置するための組成物であって、治療的に有効な量の請求項 1 に記載の二量体を含む、組成物。

【請求項 1 6】

哺乳動物において温熱性痛覚過敏を処置するための組成物であって、治療的に有効な量の請求項 1 に記載の二量体を含む、組成物。

【請求項 1 7】

前記哺乳動物がヒトである、請求項 1 4、請求項 1 5 または請求項 1 6 に記載の組成物。

【請求項 1 8】

前記治療的に有効な量が、0 . 1 μ g / k g ~ 1 0 0 0 μ g / k g である、請求項 1 4、請求項 1 5 または請求項 1 6 に記載の組成物。

【請求項 1 9】

前記治療的に有効な量が、1 μ g / k g ~ 1 0 0 μ g / k g である、請求項 1 8 に記載の組成物。

【請求項 2 0】

前記治療的に有効な量が、1 μ g / k g ~ 3 0 μ g / k g である、請求項 1 9 に記載の組成物。

【請求項 2 1】

前記治療的に有効な量が、3 μ g / k g ~ 1 0 μ g / k g である、請求項 2 0 に記載の組成物。

【請求項 2 2】

静脈内、筋肉内または皮下での投与に適切である、請求項 1 6、請求項 1 7 または請求項 1 8 に記載の組成物。

【請求項 2 3】

哺乳動物の R E T レセプターを活性化するための組成物であって、有効な量の請求項 1 に記載の二量体を含む、組成物。

【請求項 2 4】

哺乳動物において神経障害性疼痛、触覚性異痛症、または温熱性痛覚過敏を処置するための組成物であって、有効な量の請求項 1 に記載の二量体、および鎮痛薬を含む、組成物。